

【NEWS RELEASE】

2024年9月30日

各位

株式会社三井住友フィナンシャルグループ

子どもへの学び・体験支援における鎌倉市との協働について

株式会社三井住友フィナンシャルグループ（執行役社長グループ CEO：中島 達、以下、当社グループを総称して「SMBC グループ」）は、公益社団法人チャンス・フォー・チルドレン（代表者：今井 悠介・奥野 慧、以下「CFC」）とともに、子どもの教育格差解消事業「CHANCE！」を立ち上げました。同事業における新たな活動として、教育格差解消に取り組む自治体への支援を開始します。

自治体への支援の第一弾として、鎌倉市とともに子どもの教育格差解消に向けた新たな取組「鎌倉市放課後エンパワーメント・プロジェクト」を開始し、鎌倉市内の小中学生に、学習やスポーツ・文化活動、体験活動等の多様な学びの場で利用できるクーポンを提供します。SMBCグループが事業運営に係る財源等のリソースを、放課後の教育格差の問題に13年間取り組んできたCFCがクーポン事業のノウハウを提供する協働事業であり、NPO、企業、自治体の三者協働による放課後の教育格差解消に向けたクーポン事業は全国初の取組です。

1. SMBCグループとCFCによる自治体支援の仕組み

SMBCグループは2023年度からの中期経営計画「Plan for Fulfilled Growth」で社会的価値の創造を新たに経営の柱の一つに据えました。その中で「貧困・格差」を重点課題の一つとして定め、特に子どもの教育・体験格差の解消に取り組んでいます。

このたび、SMBCグループはCFCとともに、子どもの教育格差解消事業「CHANCE！」を立ち上げました。SMBCグループはCFCへ3億円の資金支援や、社員の出向やプロボノ等による事業運営支援を行っています。CFCでは2023年度、経済困窮世帯の中学3年生及び高校3年生に、総額3,920万円分の「SMBCグループ・スタディクーポン（※）」を提供し、196名の受験生の学びを支援しました。

2024年度は、クーポンの提供に加え、新たに教育格差解消に取り組む自治体への支援を開始します。鎌倉市との協働事業をはじめとして地域に根差したクーポン事業のより良いモデルを作り、全国に広げていくことを目指します。

SMBCグループ 子どもの教育機会提供事業

CHANCE!

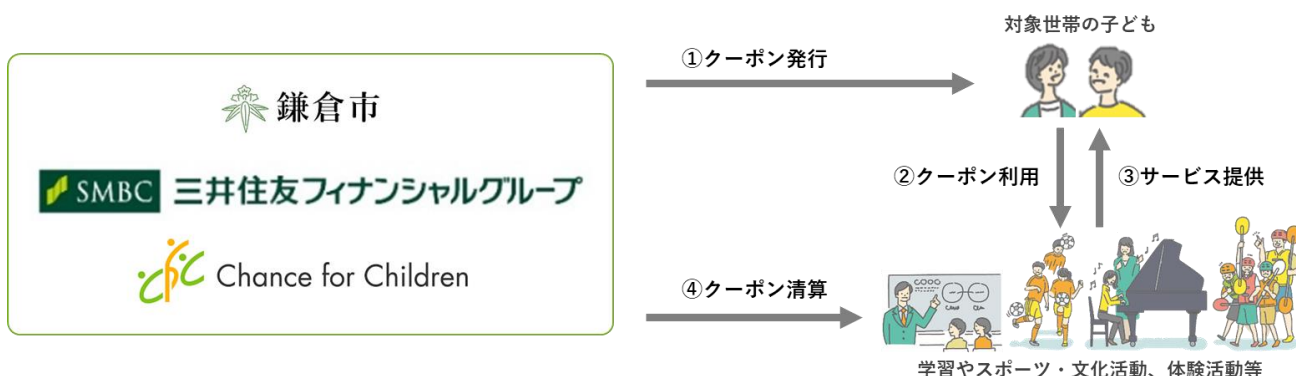
(※) SMBC グループ・スタディクーポン：経済困窮家庭の子どもたちに対して、登録地域の学習塾や習い事等の学校外教育に用途を限定したクーポンを提供し、学ぶ機会の支援を行っています。

2. 「鎌倉市放課後エンパワーメント・プロジェクト」について

本プロジェクトでは、鎌倉市の就学援助費受給世帯・生活保護受給世帯の小学校4年生～中学校3年生を対象に、学習、スポーツ、文化・芸術活動、自然体験・社会体験等といった地域の多様な学びの場で利用できるクーポンを提供します。子どもたちの「学びたい」という想いの力になりたい気持ちを込めて、「鎌倉市放課後エンパワーメント・プロジェクト」（通称：エンプロ）と名付けました。

鎌倉市は、海と山に囲まれ、豊かな自然を有するとともに、多くの神社仏閣等の歴史的遺産があり、様々な文化が根付く、魅力に溢れたまちです。このような鎌倉ならではの自然環境・文化的な資源に加え、駅前や住宅街には学習塾や習い事教室等もあり、子どもたちの放課後の学びを支える豊かな環境があるといえます。

一方で、鎌倉市の調査によると、ひとり親家庭の相対的貧困率（推計値）は44.7%にのぼり、そのような豊かな学びの場にアクセスしづらい子どもたちもいます。豊かな地域資源を活用して、家庭の経済状況に関わらず、子どもたちが興味関心に応じた多様な学びに繋がることができるよう、本プロジェクトを通じて、地域で子どもたちの学びを支える仕組みづくりに取り組んでいきます。



(三者の主な役割)

鎌倉市	対象となる子どもへの周知、関係者や関係機関への普及啓発
CFC	クーポンの発行・支払い、利用者への相談支援、教育事業者の開拓
SMBC グループ	事業運営にかかる資金や社員の出向・プロボノ等のリソース提供

(事業概要)

名称	鎌倉市放課後エンパワーメント・プロジェクト（通称：エンプロ）
目的	対象となる子どもがその属する世帯の経済的状況に関わらず子どものニーズに即した多様な学びの機会を得られることを保障し、もって、子どもの生きる力を育むことを実現すること

事業内容	対象となる子どもにクーポンを提供し、学校外の多様な学びにかかる費用を補助
利用範囲	学習、スポーツ、文化・芸術活動、自然体験・社会体験等の学校外教育サービス

SMBC グループは、子どもの成長と可能性を最大限に引き出すため、教育・挑戦の機会の提供をはじめとする様々な取組を引き続き実施してまいります。

以 上